

3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
 - (3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先
-

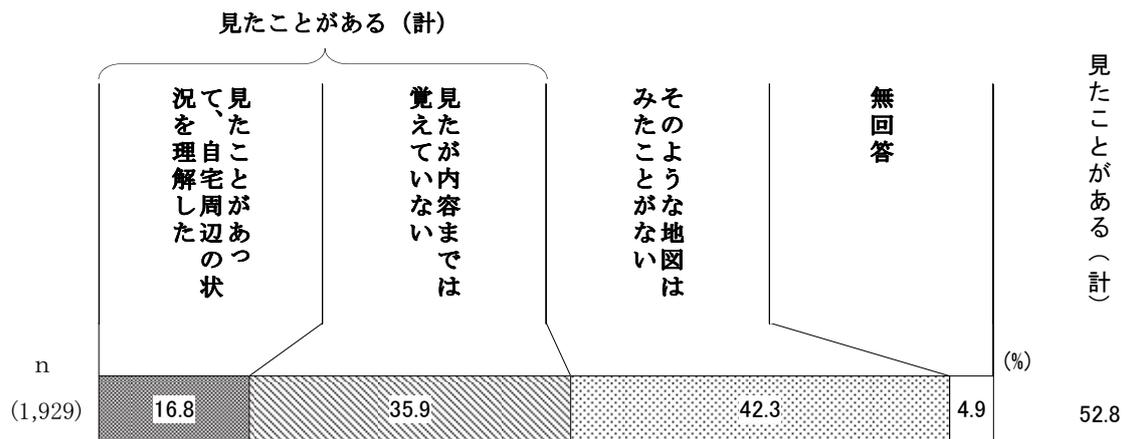
3. 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 【見たことがある】は5割強

問10 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」をご覧になったことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

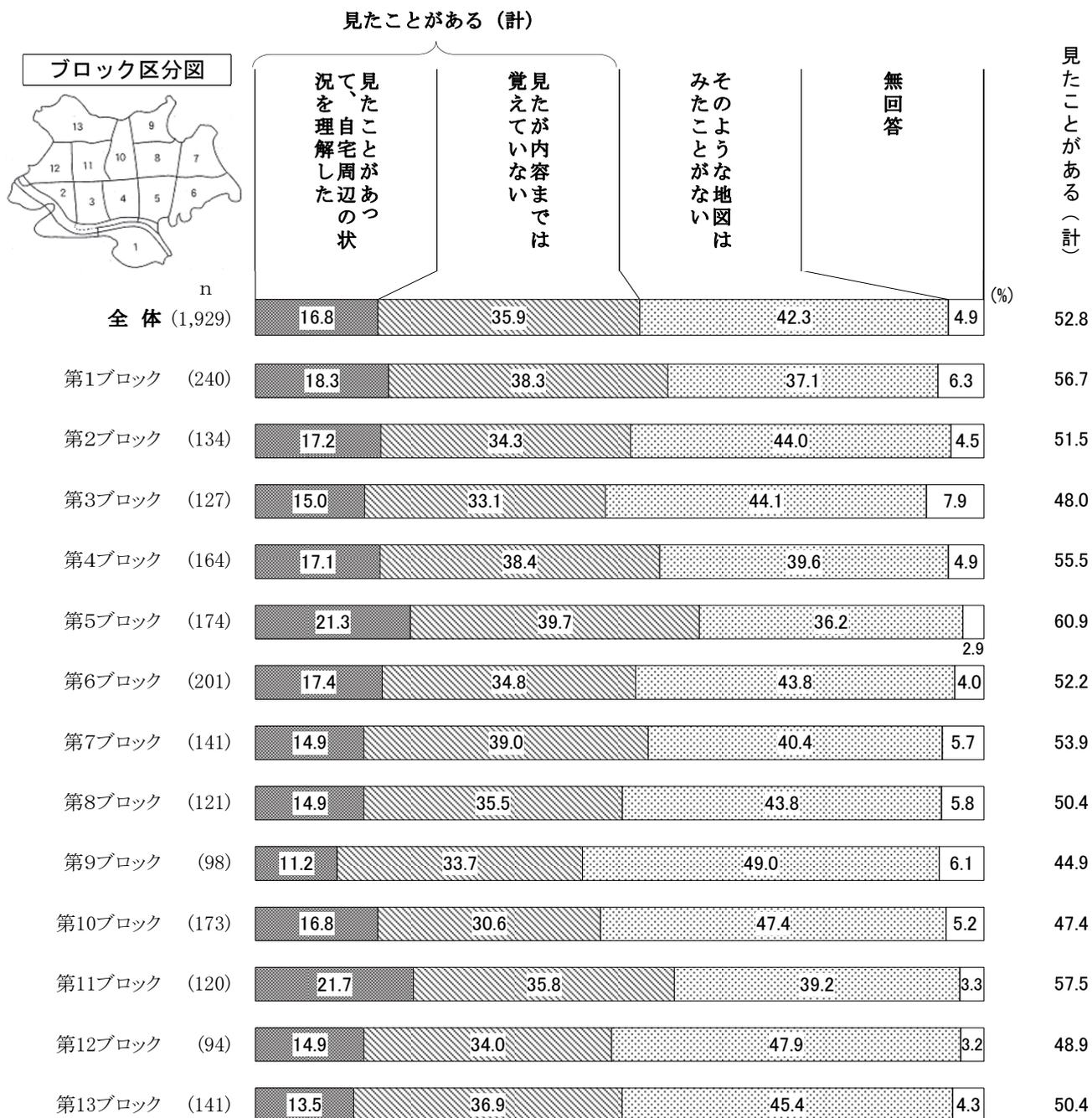


『足立区洪水ハザードマップ』を「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」が16.8%で、これに「見たが内容までは覚えていない」（35.9%）を合わせた【見たことがある】は52.8%を占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は42.3%となっている。

第3章 調査結果の分析

地域ブロック別でみると、第5ブロックで【見たことがある】が60.9%と最も高く、これに第11ブロックが57.5%で次いでいる。

図3-1-2 地域ブロック別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

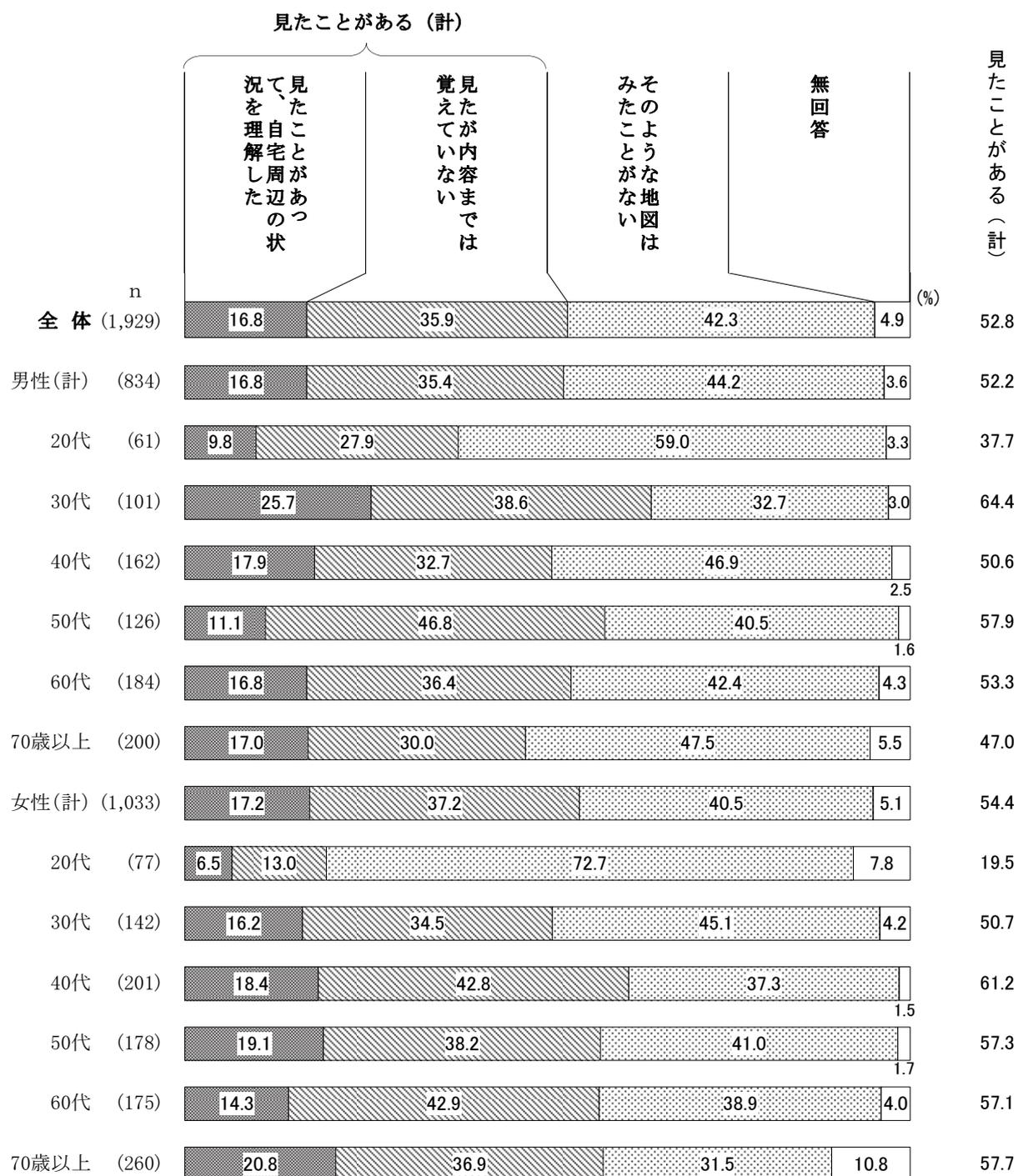


性別でみると、【見たことがある】についてほとんど男女差はみられない。

性・年代別でみると、男性では、30代で【見たことがある】が64.4%と、他の年代より高くなっている。

女性では、40代から70歳以上で【見たことがある】が6割前後を占めている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

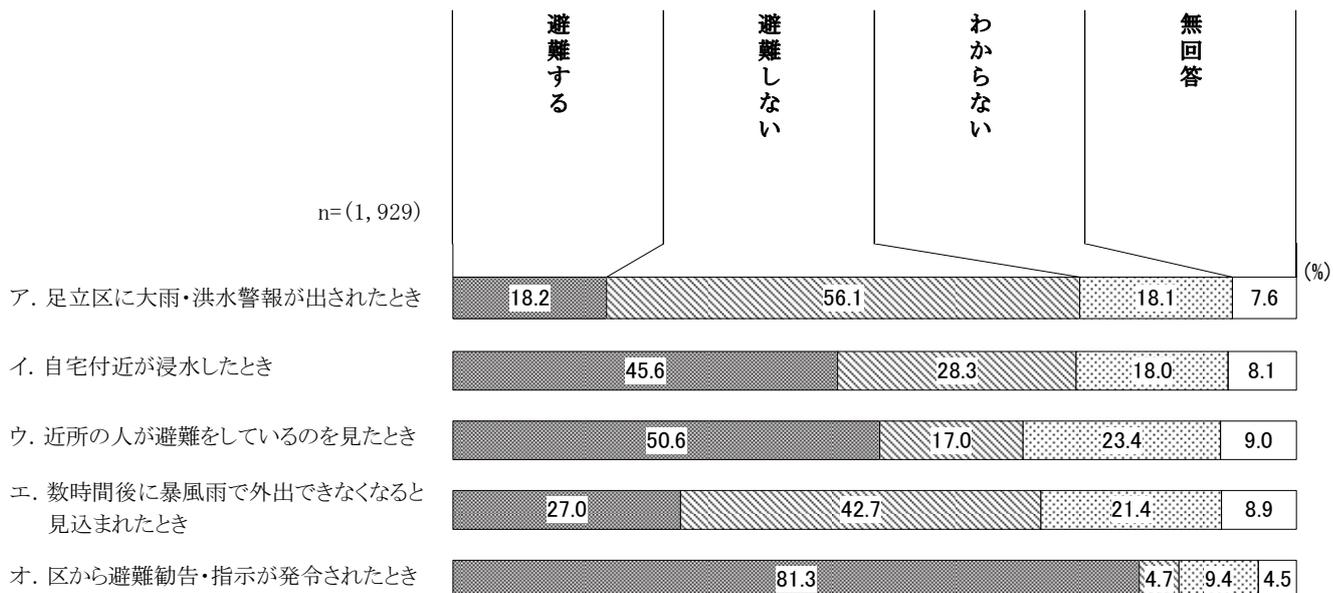


(2) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■ 〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉は「避難する」が8割を超える

問11 河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、以下のア～オまでの情報を知ったとき、あなたは自宅から避難しますか（○はそれぞれ1つつ）。

図3-2-1 河川はん濫による浸水被害の際の対処



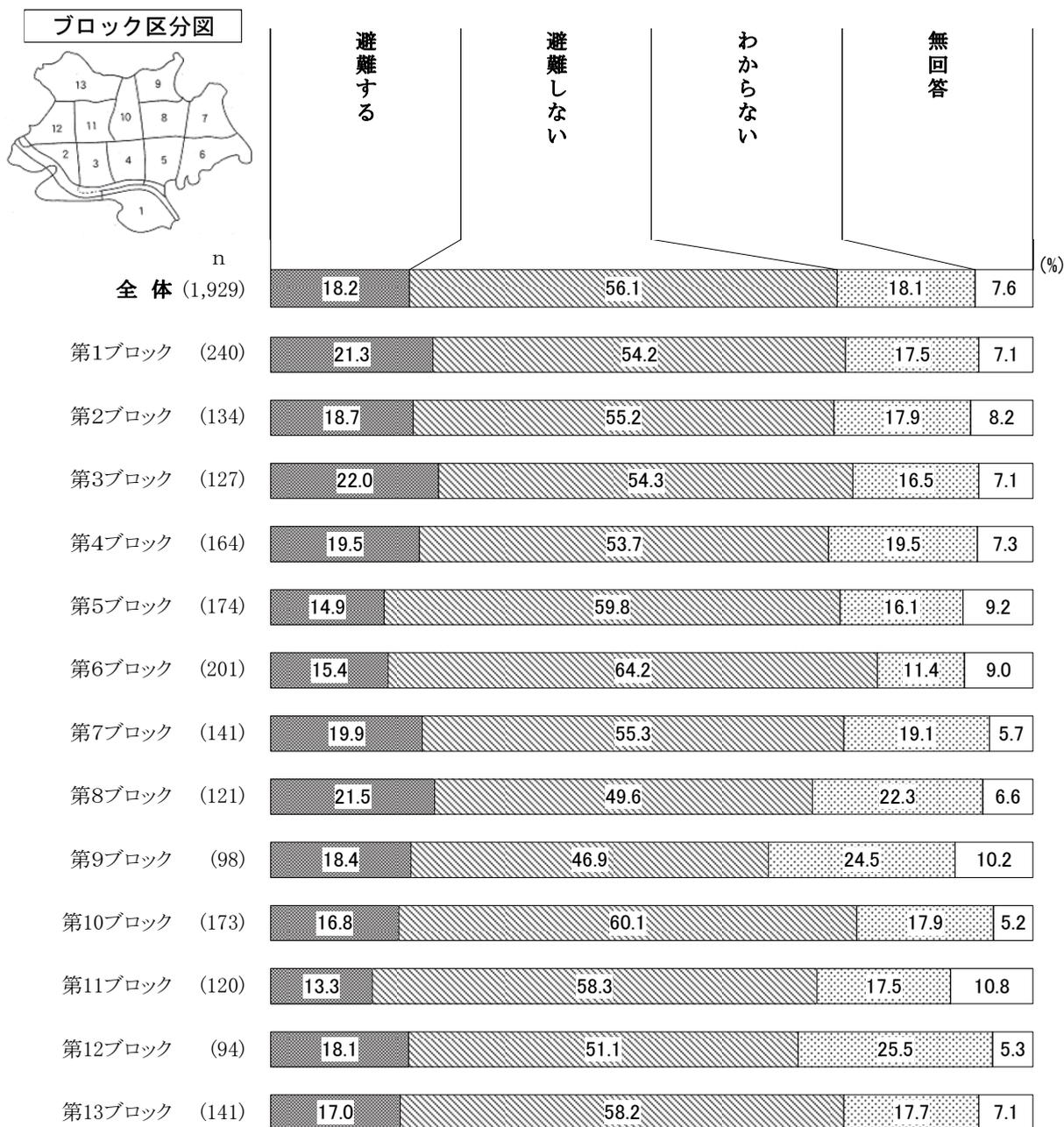
河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかを聞いた。

「避難する」が高い順にみると、〈区から避難勧告・指示が出されたとき〉が81.3%で最も高く、以下〈近所の人が避難しているのを見たとき〉（50.6%）、〈自宅付近が浸水したとき〉（45.6%）の順で続いている。

〈足立区に大雨洪水警報が出たとき〉について、ブロック別で見ると、第6ブロックでは、「避難しない」が64.2%と高くなっているほか、第5ブロック、第10ブロック、第11ブロック、第13ブロックでも6割前後となっている。

図3-2-2-① 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

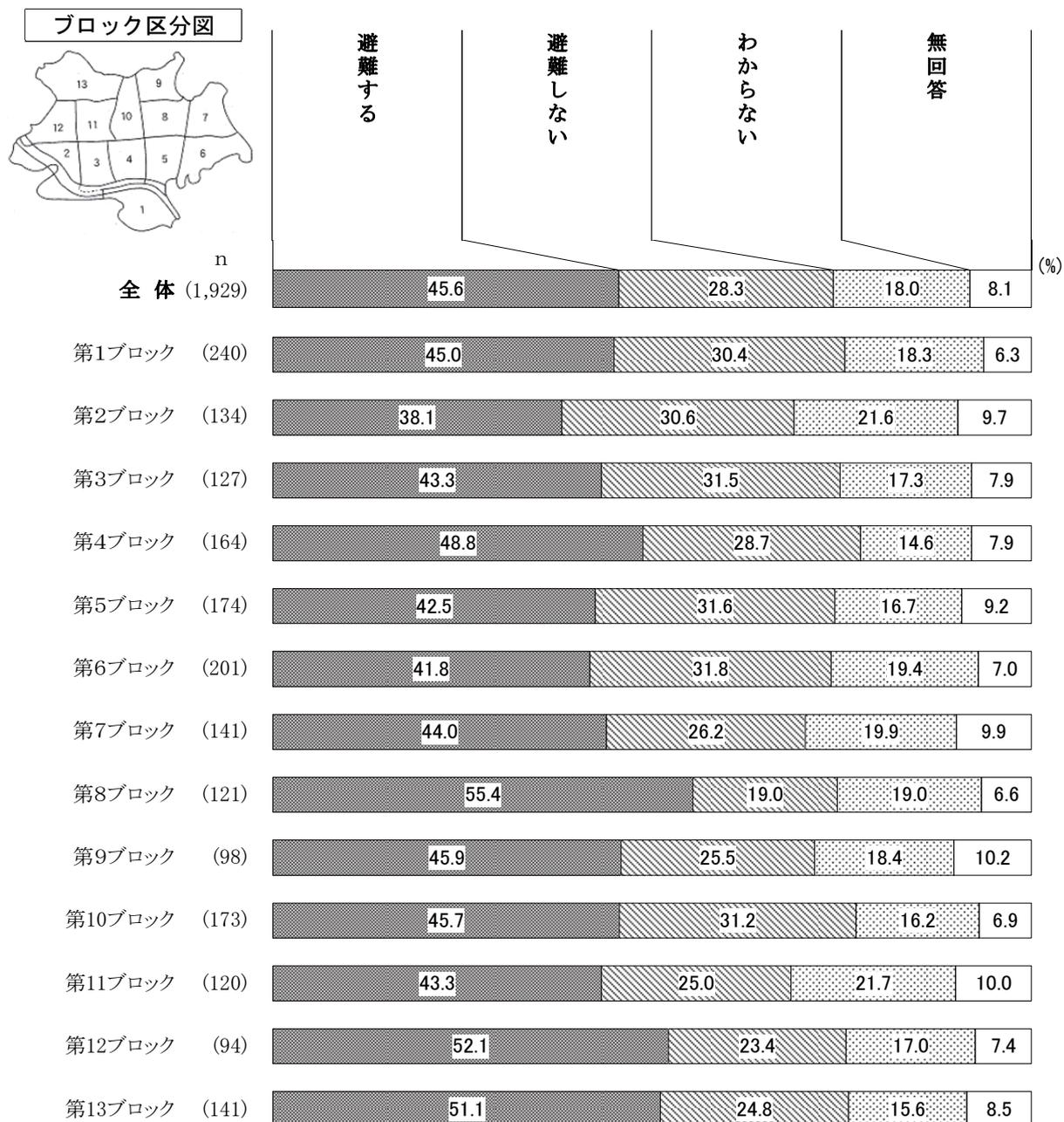
／足立区に大雨洪水警報が出たとき



第3章 調査結果の分析

〈自宅付近が浸水したとき〉について、ブロック別でみると、第8ブロック、第12ブロック、第13ブロックでは「避難する」が5割を超え、他のブロックより高くなっている。

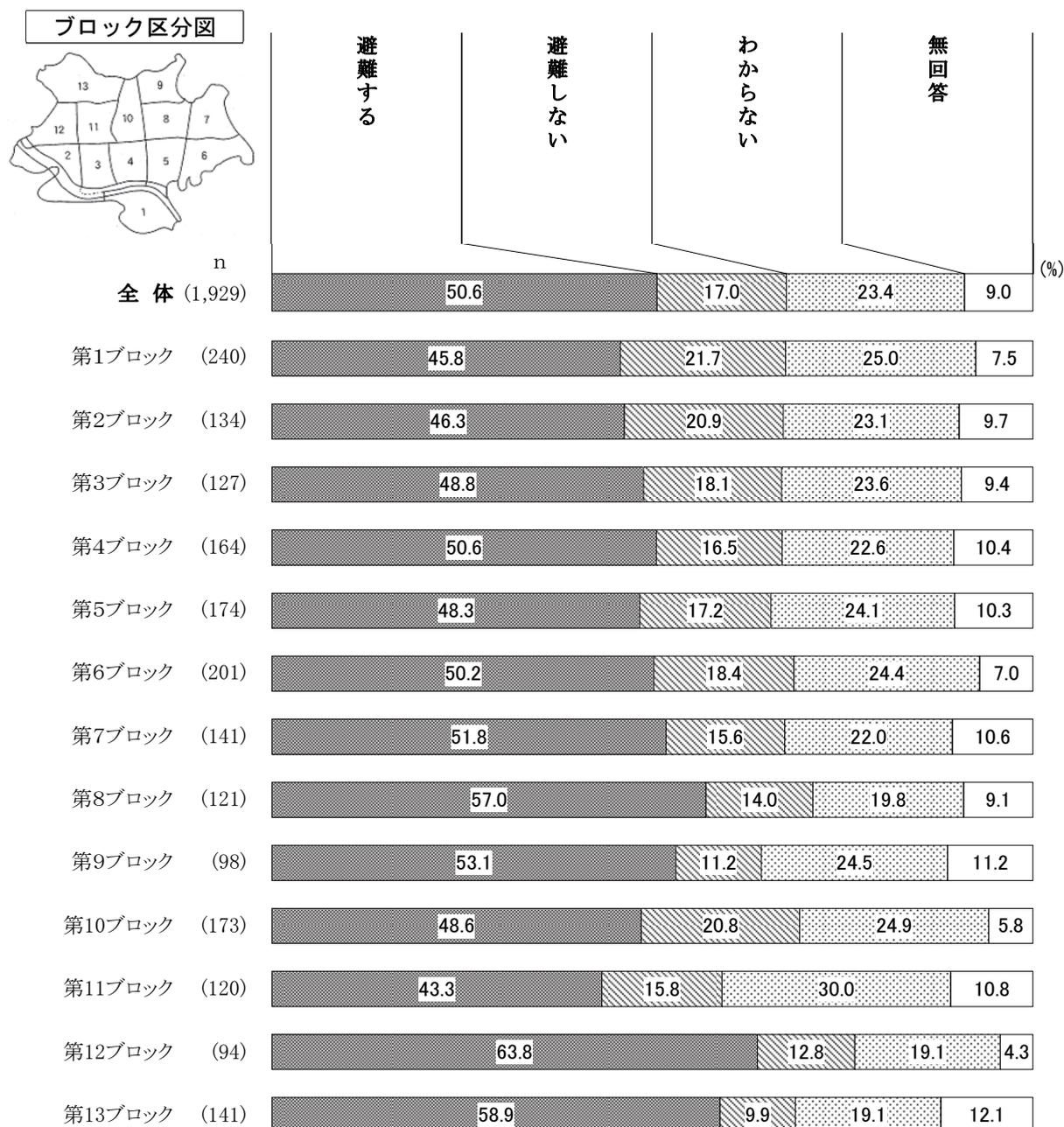
図3-2-2-② 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処／自宅付近が浸水したとき



〈近所の人が避難しているのを見たとき〉について、ブロック別でみると、第12ブロックで「避難する」が63.8%と最も高くなっているほか、第8ブロック、第13ブロックでも6割近くを占めている。

図3-2-2-③ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／近所の人が避難しているのを見たとき

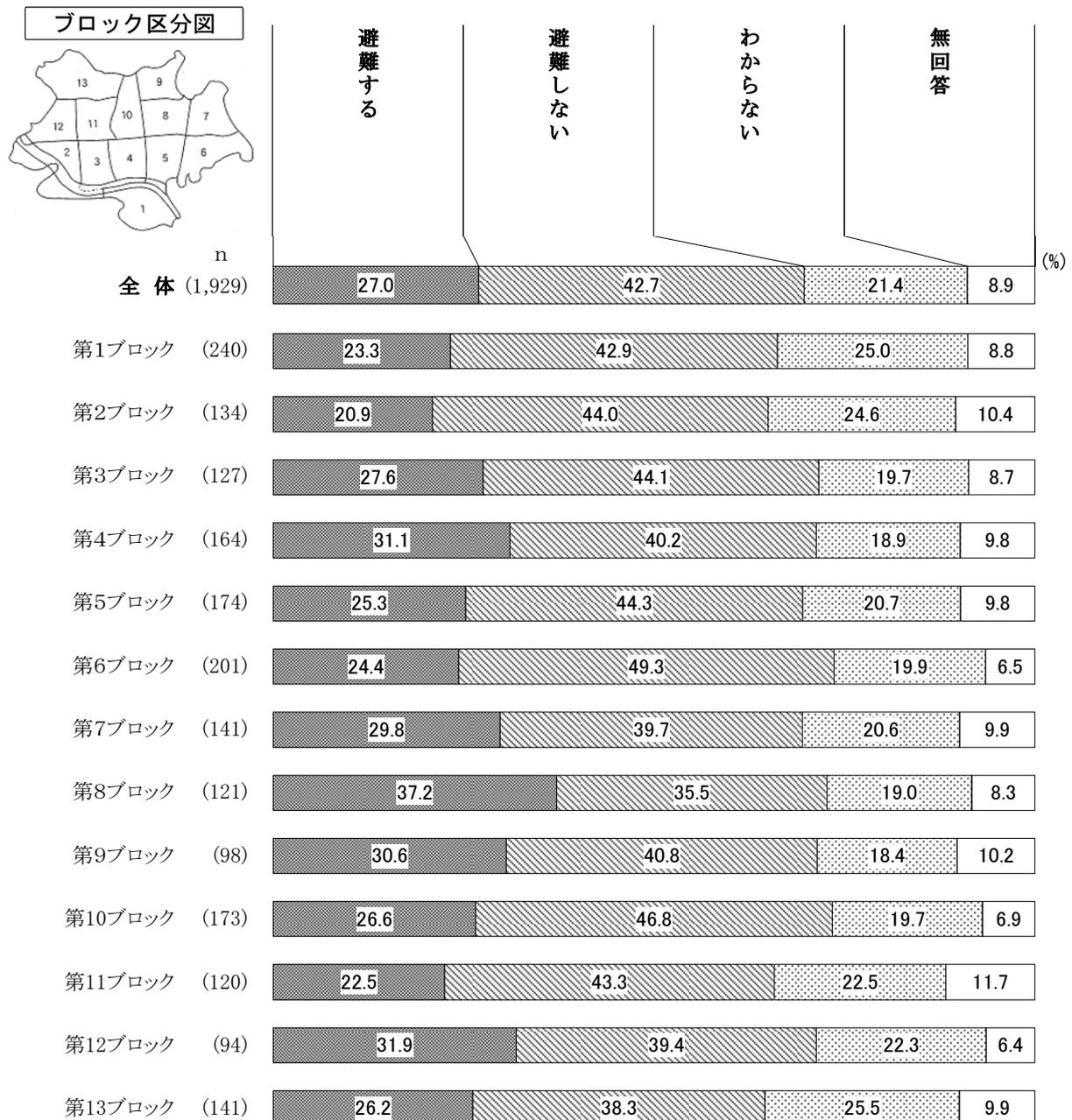


第3章 調査結果の分析

〈数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉については、第8ブロックで「避難する」が37.2%と最も高くなっているほか、第4ブロック、第9ブロック、第12ブロックでも3割を超えている。

図3-2-2-④ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

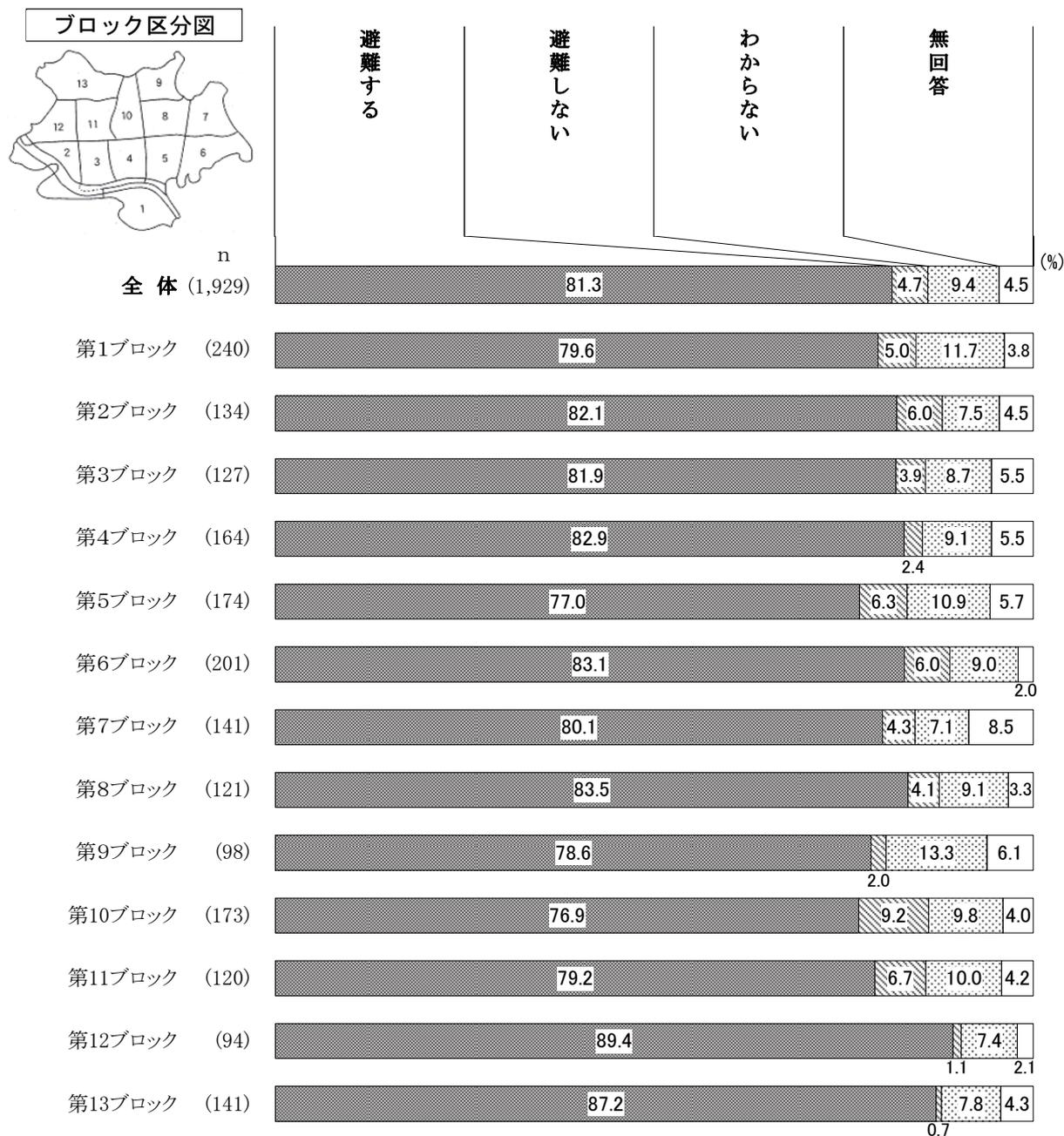
／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈区から避難勧告・指示が発令されたとき〉について、ブロック別でみると、第12ブロック、第13ブロックでは、「避難する」が、それぞれ89.4%、87.2%と9割近くを占めている。

図3-2-2-⑤ 地域ブロック別／河川はん濫による浸水被害の際の対処

／区から避難勧告・指示が発令されたとき

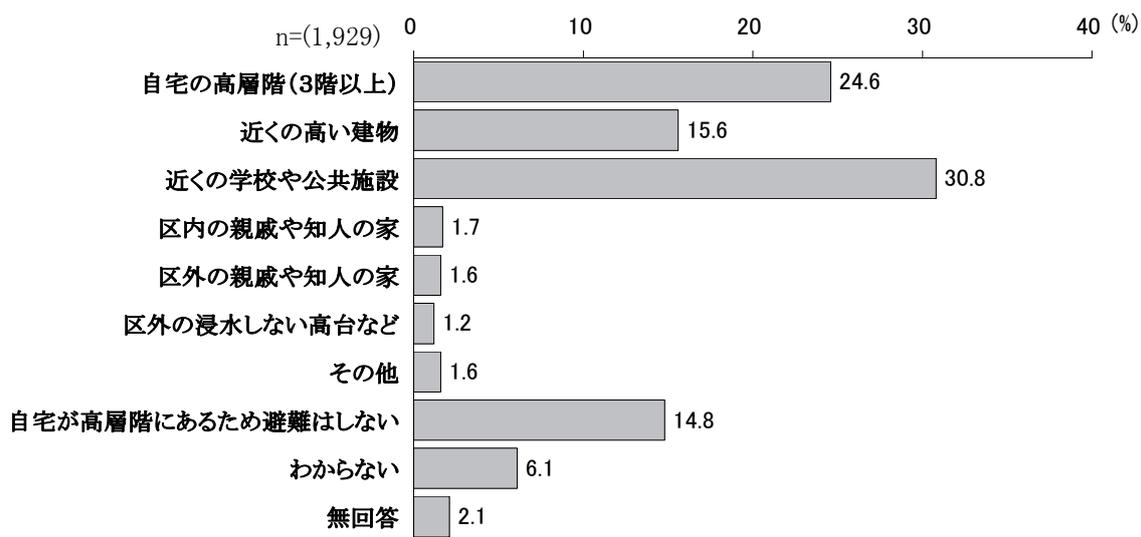


(3) 荒川がはん濫した際の最初の避難先

■ 「近くの学校や公共施設」が3割を超えて最多

問12 荒川がはん濫すると、最悪2階建ての建物の屋根まで浸水（5.0m以上）すると想定されます。そのとき、あなたは最初にどこに避難しようと思いますか（○は1つだけ）。

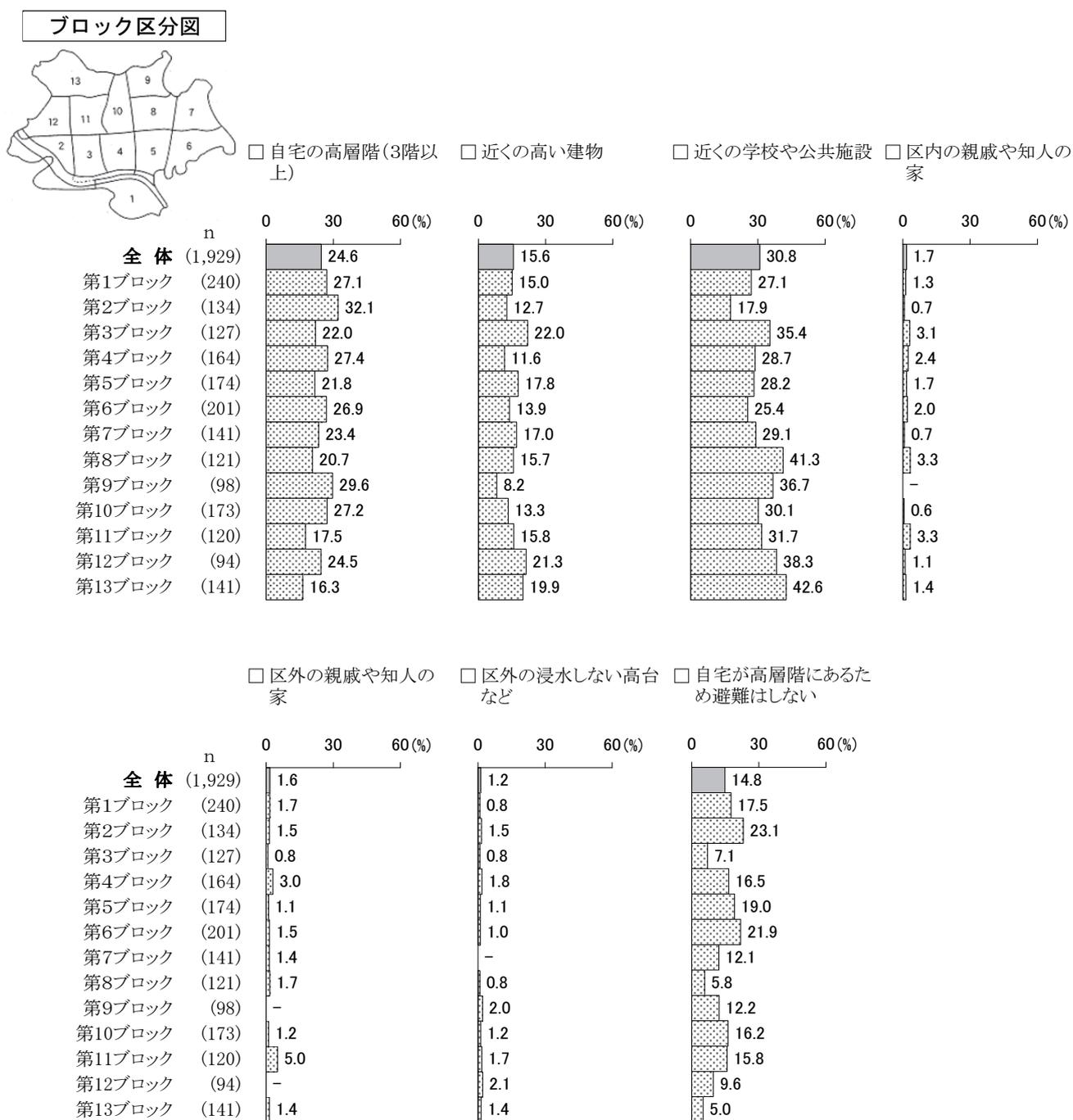
図3-3-1 荒川がはん濫した際の最初の避難先



荒川がはん濫したときの最初の避難先としては、「近くの学校や公共施設」が30.8%で最も高く、以下「自宅の高層階（3階以上）」（24.6%）、「近くの高い建物」（15.6%）の順で続いている。

ブロック別でみると、「近くの学校や公共施設」については、第8ブロック、第12ブロック、第13ブロックで、いずれも4割前後を占めている。「自宅の高層階（3階以上）」は、第2ブロック、第9ブロックで3割前後となっている。また、「近くの高い建物」については、第3ブロック、第12ブロック、第13ブロックで2割前後を占め、他のブロックよりやや高くなっている。

図3-3-2 地域ブロック別／荒川がはん濫した際の最初の避難先



第3章 調査結果の分析

住居形態別でみると、一戸建て持家、一戸建て借家、間借り・住み込みでは「近くの学校や公共施設」が、それぞれ45.5%、48.7%、57.1%と高くなっている。一方、公団・公社・都営住宅・区営住宅では「自宅の高層階（3階以上）」が44.8%を占めているほか、分譲マンション、社宅・公務員住宅・寮でも3割を超えている。

図3-3-3 住居形態別／荒川がはん濫した際の最初の避難先

